平成23年度　光市立三井小学校　学校評価総括表　（平成23年10月実施）

評価基準　　4－達成　3－おおむね達成　2－もう少し　1－できなかった

学校教育目標「やさしい子・考える子・たくましい子」　／　自己評価書

領域	年度当初の課題	重点目標	課題解決に向けての取組（具体的方策・評価項目）	評価項目・評価指標	評価基準		評価点	目標の達成状況に関する意見（取組の適切さの検証結果）	改善方策
学力の向上	互いの違いを理解し、思いを伝え合い、高め合う「かかわり」の中で、コミュニケーション能力を育成する必要がある。豊かなかかわり合いをつくる活動や環境づくりをが大切である。	④聞く力や伝える力などコミュニケーション能力を育成する。	コミュニケーション能力育成にかかわる研修会の実施。	◎教員一人一回以上研修、復伝 （講座、書籍等）	4	全員、一回以上実施	3	一人ひとりの積極的な研修及び実践的な復伝等により、具体的な指導の仕方を学び合っている。学年を越えたかかわり合いの機会の設定により、相手を意識した学習も強化されつつある。	指導の目標や手だて、検証がより明確になるように、身に付けるべきコミュニケーション能力を具体的に設定していきたい。
					3	8割、一回以上実施			
					2	5割、一回以上実施			
					1	5割未満、一回以上実施			
	学級によって、「授業が楽しい」「教え方が分かりやすい」という評価項目に違いがあった。研修を充実させ教師同士が教材研究・情報交換する時間を確保し授業改善していく必要がある。	⑤教師の授業力の向上を目指す。	・進んで授業公開。 ・情報交換会の実施。	◎教員一人一回以上授業公開 保護者による授業評価 ◎「教師の観察項目」 肯定的評価80%以上	4	授業への肯定的評価80%以上	3	学力向上への教師の努力を保護者は概ね認めているものの、我が子の言動から認められるものは、やや少ない状態である。児童自身が学習内容・活動を理解し、その成果を自覚できるような授業の組立や個へのかかわりが必要である。一人一授業の実施に対する相互評価も概ねできているが全員参観はできていない。	授業を見合うことへの意欲を喚起し、その実施をより平易にするために、伝える情報の内容やタイミングなどに工夫をしていきたい。
					3	授業への肯定的評価70%以上			
					2	授業への肯定的評価50%以上			
					1	授業への肯定的評価50%以下			
	研修の時間に各学年の取り組みを交流し、地域の人材を活用するようにしたい。また、学年・学級だより等で取り組みを紹介するとともに身近な体験活動を大切にする必要がある。キャリア教育と関連付けながら推進していく。	⑥体験活動をしっかり取り入れる。	・地域の人材や、専門家を活用した学習の実施。 ・キャリア教育の視点からも、体験活動の見直し。	◎活動を見直し、学年2回以上の活動の実施	4	全校で12回以上の体験活動の実施	3	学年に応じて、生活科や社会科、算数科、総合的な学習の時間に体験活動を実施している。幼稚園児やお年寄り、あることに秀でた方など地域の人、自分たちが育てた野菜や稲、環境にかかわることなど、さまざまな体験活動を実施している。	各学年の体験活動を素早く交流できるよう、学年便りや学級だよりの回覧を取り入れたい。
					3	全校で10回以上の体験活動の実施			
					2	全校で8回以上の体験活動の実施			
					1	全校で6回以上の体験活動の実施			
心の教育の重視	児童一人ひとりの夢の実現に向けて、情報等を提供することにより学校と家庭が一体となった学力の向上への取り組みを推進することが大切である。	①各自が達成目標をもち一人ひとりその目標を達成できるようにする。	・各自が1年間1つの目標をたてて継続的に実践。	◎児童アンケート ・目標の達成率・・・80%以上	4	目標の達成率80%以上	3	山口県家庭教育の指針「夢をはぐくむ家庭の元気」に基づいて県で作成された「わが家のやくそく」を活用し、年度初めに親子で目標を作った。児童は70%以上が肯定評価だが、保護者の20%は「分からない」と答えている。また、職員の60%しか家庭に働きかけをしてない状況である。	まず、約束の定着、習慣化について、児童・保護者へ、職員からさらなる地道な啓発が必要である。そのために、学校・学年だより、学校ホームページ、懇談会等を使い、必要性を訴えていくようにする。また、「めあての反省」を学級活動等で促し、児童が自分自身を見つめ直す機会をもつようにしたい。
					3	目標の達成率70%以上			
					2	目標の達成率60%以上			
					1	目標の達成率60%以下			
	テレビ視聴・ゲーム等の時間がまだ多く、学習時間が少ない。秩序ある生活をするため「わが家のやくそく」など家庭でやらなくてはならないことは保護者に伝えていく必要がある。	②寝る時間、起きる時間、学習時間や手伝い、読書時間等を決め、そのめあてを守る。	・生活チェックを活用し、早寝早起きの実践。 ・全校体制での学習時間等のルールの確認および児童・家庭への呼びかけ。 ・保健の授業等での生活習慣・テレビやゲームの弊害等について啓発。	◎生活チェックで早寝早起きの達成…80%以上 ◎宿題等の提出100%や読書時間の確保をしている児童60%以上。	4	生活チェックの早寝早起きの達成率80%以上	4	早寝早起きの大切さを理解し、積極的に睡眠を取ろうとする意識は感じられるようになってきた。毎週火曜日の生活チェックの日は良く守られているが、児童の評価等からは「あまり守られていない」と答える児童もいる。守れる日と守れない日があるようで、なかなか毎日同じリズムで過ごすことはできていないと思われる。	ほけんだよりや保健指導、火曜日の生活チェックなどいろいろな場を利用して、くり返し児童に睡眠の重要性を知らせ、日々の生活を見直し改善しようとする機会を増やす。
					3	生活チェックの早寝早起きの達成率70%以上			
					2	生活チェックの早寝早起きの達成率60%以上			
					1	生活チェックの早寝早起きの達成率60%以下			
	朝のあいさつ運動を長年継続しているせいか、あいさつはできるようになってきた。一方で友達同士や地域の人々へのあいさつについては自分から進んですることは少ない。また、相手を思いやる言葉遣いも大切である。	③相手の気持ちを考えたあいさつ・言葉遣いができるようにする。	・あいさつ運動　週一回 ・人に感謝する言葉や人を褒める言葉20回を実践。 ・おもいやり・あいさつについての全体講話や指導。	◎児童アンケート ・人に感謝する言葉・褒める言葉20人…達成70%以上 ・地域に進んであいさつ20人…達成70%以上	4	アンケートの達成率70%以上	3	あいさつ運動や声かけ等により少しずつあいさつしようという意識は高まってきている。しかし、実際に地域の方へのあいさつの声の大きさなどは今後継続して取り組んでいかなければならないと思われる。また、感謝の言葉などについても周知・理解を進め心を耕すことができるようにしていきたい。	自分が今後使いたい言葉や言われてうれしかった感謝の言葉などを発表（掲示）する場を設定し言う側、言われる側双方の立場で意識できるようにする。あいさつの重要性について日々話をしていき、地域を盛り上げるあいさつの輪となるように指導・声かけを進めていく。
					3	アンケートの達成率60%以上			
					2	アンケートの達成率50%以上			
					1	アンケートの達成率50%以下			
体力・安全の充実	落ち着いた行動ができない要因を探り個別の指導を行う必要がある。また、地域・保護者と協力して安心・安全な集団登下校を考える必要がある。	⑦安心、安全な登下校、学校生活を目指す。	・全校同一歩調で安全な廊下歩行を指導。 ・交通立哨の気づきを活かした登下校の指導。	◎児童アンケート ・右側歩行している児童90%以上 ・地域、保護者、教職員の交通立哨による気づき	4	右側歩行を守っている　90%以上	3	児童は、安全に気を付けて右側歩行をしていると感じている。しかし、集団での移動のときはできているが、個人での移動のときにはあまりできていない。気持ちが浮ついている時にけがが起こりやすいので黙って移動するよう指導を重ねる必要がある。また、登校中の気づきとして、あいさつに元気がなく手を挙げて横断していないことがあげられる。	廊下歩行については、各担任に呼びかけ、できていないときにはやり直しをさせるなど、全校体制で取り組む。また、安全に登校できていない班は、集めて指導する。
					3	右側歩行を守っている　70%以上			
					2	右側歩行を守っている　50%以上			
					1	右側歩行を守っている　50%以下			
	学校生活が楽しいと感じている児童の割合が学級によって相違がある。教師や児童の日頃の言動を振り返り、よい言葉掛けを工夫する必要がある。	⑧教育相談体制の充実を図り、不登校やいじめをなくす。	・全児童にアンケートを実施し、教育相談の実施。 ・生徒指導部会を開き、気になる児童を互いに把握し、組織として対応。 ・学校カウンセラーと連携して対応。	◎児童アンケートと全児童との教育相談を実施（年3回） ◎自己肯定感をもつ児童90%	4	自己肯定感をもつ　90%以上	3	5月のアンケートによれば、「うれしい言葉や行動」を受けたと感じている児童が児童からは95%、教師からは86%と、教師の方が数値が少し低いという結果が出ている。児童は、相手の行動より何気ない「言葉」に喜んだり悲しんだりしていることがわかった。	相手が喜ぶ「うれしい言葉や行動」が増えるように、アンケート結果をもとに、学活や道徳の時間などを利用して指導してもらうように先生方に呼びかけた。
					3	自己肯定感をもつ　80%以上			
					2	自己肯定感をもつ　70%以上			
					1	自己肯定感をもつ　70%以下			
業務改善	長期休業中などに計画年休取得に向けての働きかけが必要である。また、年休取得がしやすい補教体制を行うことが大切である。	⑨加重労働による健康障害防止に努める。	・　職員の年休取平均年間15日以上の達成。 ・校務分掌の見直し、役割分担の明確化。	◎年間15日以上取得。 ・達成率90%	4	年休取得達成率90%以上	2	10月31日現在、15日以上年休を取得している人はいない。最高で14日、最低で0日であり、平均約9日である。年休の目的の理解を深めていくことが大切である。	今後、冬季休業もあるので、積極的に取得を進めたい。
					3	年休取得達成率80%以上			
					2	年休取得達成率70%以上			
					1	年休取得達成率70%以下			

学校関係者評価書

評価点	評価（取組状況・達成状況に関する意見）	次年度に向けた学校運営の改善方法
3	先生方は、日々、よく努力しておられると思う。研修会もしっかり行っているということなのでうれしく思う。	
3	教育機器をよく使って授業をしているので良いと思う。これからも、しっかり使って授業をしてほしい。	
3	「いきいきクラブ」で野菜などを児童と一緒に育てているが、児童がいきいきしている。さまざまな体験活動をさせてほしい。	
3	家庭と一緒に「我が家のやくそく」づくりはとても意義のある事だと思う。担任も積極的に家庭に働きかけて欲しい。	
3	早寝・早起き等は生活習慣の基本である。これが1日の源である。引き続き努力をして欲しい。	
3	集団登校時や下校時、あいさつをするとよく返ってくる。進んであいさつまでとはいかないので粘り強く取り組んで欲しい。	
2	学校生活で、環境づくりは大切である。花壇等はよく整備されきれいな花が1年中咲いている。安全の方にも十分に気を使って安心して過ごせる学校にして欲しい。	
3	学校からの便りに「良いこと」「悪いこと」「いじめのこと」などいろいろ掲載してほしい。	

総合評価	学校関係者評価委員の総括意見	校長の総括意見